

接続助詞を用いた中途終了型発話文の待遇的談話機能 —理由を表さない「カラ」を中心に—

張季媛

東京外国語大学大学院総合国際学研究科言語文化専攻 D1

tyoken1990@yahoo. co. jp

1. 研究の目的

本研究は、カラをはじめとする接続助詞を用いた中途終了型発話文を対象に、その用法や談話機能を詳細に検討し、それらの待遇的談話機能の全体像を明らかにすることを目的とする。

日本語では、特に、話し言葉において、「うん、今日、入荷したから。」(ドラマ『結婚しない』第9回)、「気持ちはいいんですけど、いつ、復帰できるか分からないので。」(『ディア・シスター』第8回)のように、接続助詞(下線部「カラ」「ノデ」等)で終わる文がよく見られる。このような表現に関しては、「中途終了型発話文」(宇佐美 1995、陳 2000、楠本 2015)、「言いさし表現」(朴 2010)、「未完結文」(劉 2014)、「言いさし文」(白川 2015、劉 2016)など、さまざまな呼び方がある。「言いさし文」や「言いさし表現」とすると、用語そのものにおいてその意味や機能などがあらかじめ示されることになり、このような発話文を対象に、その用法や機能を詳細に記述・分析していこうとする本研究の目的とはそぐわないものとなる。したがって、本研究では、これらの文についてはその形式的側面に着目し、「中途終了型発話文」という用語を用いることとする。

宇佐美(1995)は、中途終了型発話文には述部が省略されるタイプ(例えば、「初めまして。田中といいます。お名前は。」(作例)など)と、上に挙げた例のような主節が省略されるタイプの2種類があると述べている。本研究では、主節が省略され、従属節のみで現れる発話文、即ち、接続助詞「カラ」「ノデ」等を用いた中途終了型発話文を考察対象とする。本研究で扱う「中途終了型発話文」を以下のように定義する。

(1) 中途終了型発話文：

形式上、複文の主節が現れず、接続助詞で終わる発話文のこと。意味伝達上、発話者の意図・態度・気持ちなどの伝達には支障がない。

2. 待遇的談話機能

山岡(2010)は「発話機能」を「策動」、「宣言」、「演述」、「表出」、「形成」という5種類に分

接続助詞を用いた中途終了型発話文の待遇的談話機能 ー理由を表さない「カラ」を中心に

類し、各分類における更に詳細な範疇を規定している。例えば、「策動」の範疇では、「意志要求・意志表明」、「依頼・協力」などの具体的な発話機能が含まれる。本研究では、「談話機能」を、この「発話機能」より広く以下のように定義する。

(2) 談話機能

発話機能も含め、話し手と聞き手が相互的なやり取りを通して成し遂げた談話において、個々の発話が果たす働きのこと。

日本語記述文法研究会（2009:227-230）によれば、待遇表現とは、同じ事態を述べるのに、対人関係や場面差などに配慮して使い分ける表現のことである。また、待遇表現の持つ待遇的意味については、対人関係（上扱い/下扱い、遠ざけ/親しみ）、場面差（あらたまり/くだけ）、丁寧さ（丁寧/ぞんざい）などの尺度で計られると述べている。

以上を踏まえ、本研究における待遇的談話機能を以下のように定義する。

(3) 待遇的談話機能

ある発話文の談話機能を対人関係、場面差、丁寧さなど待遇的意味という観点から捉えたもの。話し手が聞き手に配慮しているかどうかも考慮すべき要素とする。

接続助詞「カラ」を見ると、理由を表さない「カラ」を用いた中途終了型発話文（以下「カラ中途文」と呼ぶ）の待遇的談話機能については、先行研究において断片的であるが記述がなされている。一方、理由を表さない「カラ」を用いた完全文（以下「カラ完全文」と呼ぶ）の待遇的談話機能については先行研究において記述がない。本研究では、まず、理由を表さない接続助詞「カラ」に着目し、カラ完全文とカラ中途文の待遇的談話機能を明らかにし、双方の相違や関連性を見出したいと考えている。

3. 理由を表さない「カラ」

3.1 完全文

白川（2009）は接続助詞カラの本質的な機能は「情報提示」だと述べており、理由を表さない「カラ完全文」においては、談話機能によって「条件提示」（「今から金を取ってくるから、他の人に売らないでくれませんか」）、「お膳立て」（「これから発表の順番を言いますから、注意して聞いてください」）、「段取り」（「式場での参殿や起立、着席などの指示はすべて式の世話役の典儀がやってくれますから、参列者はそれに従います。」（塩月弥栄子『新冠婚葬祭入門』p. 94 白川（2009:50）用例（24））の3つの用法があると記述している。白川（2009）では、この3つの

用法及びそれらの談話機能について詳しく記述されているが、それらを待遇的意味の視点からは考察していない。

3.2 中途終了型発話文

白川 (2009) は、理由を表さない「カラ完全文」の分類に従い、理由を表さない「カラ中途文」には、「条件提示」と「お膳立て」の2種類の用法があるとしているが、その待遇的談話機能については記されていない。

(1) 郷子：大学祭に行ってもいいですか？

五代：えっ……！？あの……大学祭ってぼくの大学の……？

郷子：はい。邪魔にならないように、適当にやりますから……

五代：邪魔なんてとんでもない！！ぼくご案内します

(高橋留美子『めぞん一刻2』p.145 白川 (2009:55) 用例 (35) 下線は引用者による)

(2) 大樹が出て行く。

大樹：行ってきます！

正樹：うん……

慎平が自分の部屋から出てきて、

慎平：おやつ、アイスクリームが冷蔵庫に入ってるからな。

大樹：うん……行ってきます！

と、行く。

(鎌田敏夫『男たちによろしく』p.69 白川 (2009:57) 用例 (37) 下線は引用者による)

例 (1) は、白川 (2009) が提示した「条件提示」用法であり、話し手が譲歩する発話を通し、依頼・許可などの目的を達成するという文脈上の特徴が見られる。また、朴 (2010) は、この用法を「依頼、勧誘など相手に対して働きかける用法」だとし、「言いさし表現を用いたほうが相手への配慮の気持ちを効果的に表すことができる」(p.267) と説明している。例 (1) の「カラ中途文」は、依頼という潜在的な談話機能があり、発話の丁寧さも高く、途中で終わる形で直接的な依頼文を省略することを通して、相手にプレッシャーを与えずに断りの余裕を与え、十分配慮していると考えられる。

例 (2) について、白川 (2009) では、話し手が、聞き手の何らかの行為を見越して (あるいは、期待して)、その行為を実行するために必要な前提情報を提示している「お膳立て」用法だと述べている。例 (2) の「カラ中途文」も、ただ聞き手に情報を提供するだけに止まり、相手

接続助詞を用いた中途終了型発話文の待遇的談話機能 —理由を表さない「カラ」を中心に

に行動の主導権を与え、相手にプレッシャーを与えず、十分な配慮を与えていると考えられる。

このような「カラ中途文」に観察される待遇的意味は、「カラ完全文」とどのように関連しているのだろうか。丁寧さから見れば、「カラ完全文」のほうがより丁寧なのではないかと考えられるが、その待遇的意味はどのようになっているのだろうか。本研究では、理由を表さない「カラ完全文」と「カラ中途文」の用例をそれぞれ収集し、談話機能による分類を再検討し、文脈情報を考えた上で、それぞれの待遇的談話機能を明らかにし、「カラ中途文」と「カラ完全文」の相違や関連性を見出したいと考えている。

参考文献

- 宇佐美 まゆみ (1995) 「談話レベルから見た敬語使用—スピーチレベルシフト生起の条件と機能—」『学苑』 662, pp. 27-42.
- 楠本 徹也 (2015) 「中途終了型発話文「～けど」「～ので」の要求・断り行為場面における待遇的談話機能」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 41, pp. 47-60.
- 斉藤 信浩 (2008) 「因果関係を表さない接続助詞カラの習得—英語・中国語・韓国語母語話者のデータ比較を通して—」『ことばの科学』 21, pp. 155-170.
- 田中 寛 (2004) 『日本語複文表現の研究：接続と叙述の構造』 白帝社.
- 陳 文敏 (2000) 「日本語母語話者の会話に見られる「中途終了型」発話—表現形式及びその生起の理由」『言葉と文化』 創刊号, pp. 125-141.
- 益岡 隆志 (1997) 『複文』 くろしお出版.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法 7 談話・待遇表現』 くろしお出版.
- 白川 博之 (2009) 『「言いさし文」の研究』 くろしお出版.
- 白川 博之 (2015) 「「言いさし文」の文法」『日本語学』 34 (7), pp. 2-13.
- 朴 仙花 (2010) 「OPI データにみる日本語学習者と日本語母語話者による文末表現の使用—接続助詞で終わる言いさし表現を中心に」『名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻』 11, pp. 217-235.
- 劉 曉萃 (2014) 「未完結文の使用における語用論的条件」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』 14, pp. 143-160.
- 劉 曉萃 (2016) 「意味論的な省略による言いさし文」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』 15, pp. 179-194.